台風19号から1年　今も残る爪痕

軟式野球部の練習拠点にも大きな影響

千西一週

第73号
発行
2020年
10月30日（金）
上田西高校
新聞委員会
編集局

編集局長：堀内 日菜子
新聞委員長：橋爪 ここ菜
坂元舞羽
竹内美結

昨年長野県全体に甚大な被害を与えた台風19号。その被害を受け、軟式野球部の練習場所であった河川敷の塩尻グラウンドが流されてしまった。台風被害を受けてから1年経った現在の河川敷の様子と、軟式野球部の練習内容、これからの活動への意気込みなどについて軟式野球部の龍野太陽主将と清水直監督に話を聞いた。

流されてしまったネットをグラウンド端の流木の残骸の中から見つけ出す軟式野球部の龍野太陽主将　写真撮影＝坂元舞羽

千曲川の増水で河川敷グラウンドが水没

去年の10月台風19号で上田市は別所線の鉄橋が崩落するなど大きな被害を受けた。復旧作業は順調に進められているが台風から1年経過した現在もなお、その爪痕が残っている。

学校から1キロほど離れた場所にある河川敷は上田西高校の軟式野球部が練習場所として使用していた。しかしこのグラウンドも台風による千曲川の増水によって、道具が全て流されてしまうなどの大きな被害に遭った。グラウンドに川砂が数センチ溜まり、川底のようになってしまったため練習ができない状況になってしまった。現在は整備が進み、グラウンド用の砂が運搬され、ほぼ台風の被害に遭う前の状態に戻ってきてはいる。しかし現在も河川敷での練習は再開できていない。

当時のグラウンドの様子を見た軟式野球部の清水監督は「ずっと部ができてからここで練習してきて汗流してきた場所なのであんな状態になってしまってせつなかった」龍野主将は「大会が始まる前だったので練習ができない状況になってしまってとても心配だった」と話した。練習環境がなくなるというハンデを背負った軟式野球部だが、見事夏の大会では優勝という結果を残した。

（坂元　舞羽）

台風１９号から１年経過した河川敷グラウンドの様子。現在は整備が進み当初よりも早く練習が可能になる見通しとなっている。写真撮影＝坂元舞羽

練習はできることを考え工夫

創部当初より活動拠点となっていた塩尻グラウンド、「河川敷」は軟式野球部部員たちの原点ともなっている場所だ。はじめは、「こんな場所で本当に練習できるのだろうか」と思ったこともあったそうだ。

学校から河川敷まで約1キロという決して恵まれているとは言えない練習環境の中、野球用具の保管場所もないため、リヤカーでバットやボールを運ぶ。その上街灯もなく、日が暮れるとあたりは真っ暗になる。今のような日が沈むのが早い季節はなおいっそうそれが不便に感じられる。

千曲川の増水により流されてしまったスコアボードとホームベース。グラウンドの端に置かれていた。　写真撮影＝坂元舞羽

そんな「河川敷」も昨年の台風19号の影響を受けて使えなくなってしまったため、軟式野球部は現在、テニスコートの一部と柔道場を借りて練習している。

テニスコートの一部という狭い場所でしか練習ができない不便さを尋ねると、清水監督は「とにかく狭いのでボールを打つにも投げるにも感覚がグラウンドと違ってしまうのでそこが不便に感じる」龍野主将からは「連携プレーができない」といった声が聞かれた。チーム全体での練習がチームスポーツである野球には不可欠だが、今はそれが出来ずにいる。

そんな不利な状況の中で今は、「自分たちには何ができるか一人ひとり考えて行動し、コートの限られた中で一人一人の力を伸ばすために個人練習に重点を置いて練習を行っている」とのことだった。軟式野球部は決して恵まれているとは言えない環境の中でそれを言い訳とせずに練習に取り組み全国制覇を目指している。

（堀内日菜子）

来夏の全国大会出場を目指して

３年生が引退し現在の軟式野球部の部員の人数は１年生４人、２年生４人の８人で１人足りない中で活動を行っている。メンバーが足りないため他の部活から助っ人を借りている。実際に助っ人として活動している２人は共にハンドボール部と掛け持ちしている状態だ。

全国的に見ても軟式野球の競技人口は減少している。今年の長野県の夏の大会への出場チーム数を比較してみると、硬式野球の出場校は78校であるのに対し軟式野球の出場校は８校と大きく差があることがわかる。新型コロナウイルスの影響で夏の全国大会はなくなってしまったが、夏の代替大会では、強豪校の松商学園を倒し、優勝した。秋の大会も助っ人を借りてる状況の中北信越大会出場を決めた軟式野球部。

現在の目標は「来年の夏の選手権大会で全国大会に出れるように個々の力を伸ばせるように努力して練習している」とのことだった。また、これからどんなチームを作っていきたいかという質問に対し龍野主将は、「個々で一人一人打てるようなチームにしていきたい」と答えた。人数が少ない中ではあるが軟式野球部の挑戦は続く。

（橋爪ここ菜）

現在テニスコートの奥のスペースで練習を行っている軟式野球部の様子　写真撮影＝坂元舞羽

夏の長野県大会　ライバル松商学園を下し、優勝

新型コロナウイルスの影響を受け、その感染防止対策のため部活動の大会の多くが中止または、延期になった。それは野球も例外ではなく硬式野球では甲子園を会場に行う選手権が中止に。軟式野球も同じく選手権の全国大会は中止となった。しかし様々な人の尽力で代替大会が開催され、軟式野球部は見事この大会で優勝を果たした。激戦となった夏の大会と新体制で挑んだ秋の大会を振り返る。

夏季高等学校軟式野球長野県大会決勝で優勝した軟式野球部の選手達　写真提供＝軟式野球部

準決勝　長野工業戦

長野工業との準決勝では、熱い戦いの中９対７で決勝への切符を手に入れた。先に５点を先行され、元気がなく声が出ずに焦っていた選手たち。そんな中、清水監督は「９回の時に勝っていれば良いから、１点ずつ返していこう」と選手に声を掛けた。苦しい試合の中、２回で降板した倉澤俊輔（特進３年＝塩田）に代わりエースの内山悠輔（進学３年＝篠ノ井西）がマウンドに上がりその後２失点にまとめた。４回裏に追いついた上田西は８回裏に２点を追加し、そのまま逃げ切った。

決勝　松商学園戦

本校軟式野球部は、夏季高等学校軟式野球長野県大会で２年ぶりの優勝を果たした。８月１日に大町市運動公園野球場で行われた強豪松商学園との決勝では、選手たちの勝ちたいという強い思いが功を成し、12回タイブレークの末７対６で勝利した。新型コロナウィルスの影響で練習メニューや練習場所が限られる中、休みの日には自分達で集まって場所を探し練習を行うなど、小さな努力を積み重ねていた選手たち。

試合は両者譲らず均衡した展開が続くが、６回の裏の途中、松商学園のエース望月が負傷交代。このチャンスを見逃さなかった上田西は３点を巻き返した。しかし７回の表には４点を追加され再び逆転を許す。準決勝で「俺たちが点とるから大丈夫」とチームメイトに励まされたというピッチャー倉澤は「準決勝ではみんなに助けてもらったから決勝では全力投球した」と話していた。その後８回裏に上田西が同点に追いつくとそのまま試合は動かずに12回へ、この回よりタイブレークが適応されるが12回表を無失点で乗り切った上田西はその裏に得点し見事に強敵相手にサヨナラ勝ちを収めた。

（竹内　美結）

夏季高等学校軟式野球大会準決勝スコア

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安
長野工業	2	3	0	1	0	0	1	0	0	7	12
上田西	0	1	2	4	0	0	0	2	×	9	10

バッテリー	
長野工業	小林、榎田、山崎　ー　柄澤
上田西	倉澤、内山　ー　千野

夏季高等学校軟式野球大会決勝スコア

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	安
松商学園	1	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	6	7
上田西	1	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	1 ×	7	8

バッテリー	
松商学園	望月、野口、望月　ー　織田
上田西	内山、倉澤　ー　千野

夏季高等学校軟式野球大会スコアは長野県高野連ホームページより引用

上田西高校軟式野球部

足立 智志	３年	（飯田東）
内山 悠輔	３年	（篠ノ井西）
大屋 夏央	３年	（戸倉上山田）
奥村 太陽	３年	（上田第六）
倉澤 俊輔	３年	（塩田）
櫻井 岳	３年	（丸子北）
滝沢 天伸	３年	（屋代）
沓掛 圭佑	２年	（青木）
龍野 太陽	２年	（塩田）
千野 佑真	２年	（川中島）
松澤 竜之介	２年	（青木）
井出 葵	１年	（東御東部）
下村 翔真	１年	（丸子北）
竹倉 望	１年	（上田第四）
宮原 和暉	１年	（更埴西）
藤田 遼※	２年	（上田第四）
古越 伸※	２年	（御代田）

記録　宮澤 呼花　１年　（更埴西）
監督　清水 直
部長　沼口 淳

※ハンドボール部からの助っ人

上田西高校軟式野球部は平成２２年度の初出場以来、この１０年間で６度の全国大会出場を果たす。平成２７年度には４度目の出場で初勝利を挙げ、過去３回ベスト４まで勝ち進んだ実績を持つ。「河川敷から全国へ」を合言葉に決して恵まれているとはいえない環境の中日々練習に取り組んでいる。

秋季北信越大会は悔しい初戦敗退

10月24日（土）第26回北信越地区高等学校軟式野球大会が上越市高田公園野球場で行われた。上田西は直江津中等教育学校と対戦。当日は試合開始と共に天気が荒れていて雨と風が強い中での試合となった。

コンディションが悪い中上田西は２回裏に先制を許す。その後試合が中断したが、中断開けの３回表に上田西は２点を追加した。しかし６回裏に逆転を許してしまう。上田西は終盤チャンスも作り粘ったが追いつくことが出来ず３対５で惜しくも初戦敗退となった。昨年の台風19号の影響で、グラウンドで練習出来なかった軟式野球部。その影響について清水監督は「グラウンドがないと戦術的な練習が出来ない。競った試合とかそういう場面で難しい部分があったと思う」と振り返った。

整備が進んでいる河川敷のグラウンドも春からは使用できる見通し。以前のように試合に勝つためのチーム練習ができるようになる日までもうしばらく我慢が必要だ。清水監督は「（グラウンドが使用できるようになったら）戦術的な練習に切り替え夏は勝てるようにしたい」と次を見据えて語った。

（坂元　舞羽）